

掲示板

この一年
悔いなしと
散る落葉

西尾市永覚寺掲示板より



赤羽別院報 第1号

発行所
真宗大谷派 赤羽別院 親宣寺
発行人 野々山洪美
愛知県幡豆郡一色町赤羽上郷中14
Tel. Fax. (0563) 72-2308
印刷/株教育広報センター

シリーズ

人間模様

①

一色町 深見 脩・須磨子「夫妻

娘さんが十数年前に交通事故で亡くなりました。そんな深い悲しみをとおして仏法に出会った。そして今、「いろんな教えのなかで、親鸞聖人の教えが一番落ち着く」と語られる深見さんご夫妻に、真宗の教えとの出会いを聞く。

娘さんが亡くなられてもう何年経ちますか。
脩 この間十七回忌を勤めて、本山に納骨に行つて来ました。いつもあったところに(お骨がないと、淋しさを感じます。

須磨子 でも心の中に、娘と一緒に生きているという気持ちはずっとあります。
以前から仏教に関心を持ってみえたのですか。

脩 説教の案内が掲示してあつても、そんなことがあるのかと

ながめている程度で、教えの内容容などほとんど関心がなかったですね。

須磨子 私の実家は真言宗で、亡くなった人を供養して成仏するように真言を唱えるとか、願い事を叶えてもらうように祈る。仏教はそういうものだと受け取っていました。

初めて真宗の教えに出会われたのはどこですか。
須磨子 お寺の同朋会です。初めは娘のお葬式をしたお寺はどんな教えなんだろうかと

思つて聞き始めたのです。聞いてみて、どんな感じですか。

脩 いろいろな宗教の話聞いても違和感があつた。それは祈願、家内安全、交通安全を祈ること、頼むことが主なことです。真宗にはそれが無い。生かされて生きるということを知らせてくれるのが真宗なんだと。

須磨子 私はそんな御利益が欲しくてお参りに来てるんじゃない。娘を亡くしてお参りして、御利



益なんか欲しくない。脩 御利益を頼む宗教は言われるとおりにすればよいのだからよくわかります。しかし、真宗の教えはそうではないからむづかしい。真宗の教えを頭では理解できたように思うが、腹には落ちない。聞法を続けてこられて、変わったと思われる点は？

須磨子 お参りするのには娘のためという思いが強かったのですが、今は逆に娘の方が、「お母さん教えを聞いてよ」って言

蓮如絵伝を読む(1)

鹿子の御影

蓮如上人は応永二十二年(一四一五)、大谷の本願寺で誕生された。父は本願寺七代存如上

人、母は本願寺に仕える女性で「蓮の前」という名前といわれ

る。そして上人は幼名を布袋丸(後に幸亭)と称した。

布袋丸六才の時、母は自ら縫つた鹿の子模様の小袖を着せて

絵師に描かせた。そしてその年の十二月二十八日に本願寺を去

つた。この時母は、幼いわが子に「児の御一代に聖人の御一流

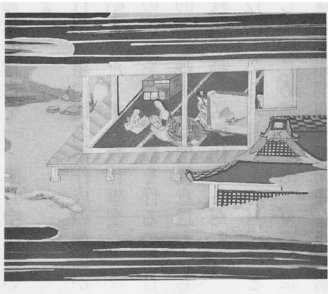
を再興したまへ」と諭した。蓮如上人の一代の教化の原動力はこの一語から出発しているよう

でもある。実はこの言葉の前に「我はこれ西国の者なり、ここにあるべき身にあらず」と告げられた。

上人は後年、弟子などに母の行方を捜させるが再会は無果とな

つてくれているように思う。先立つて亡くなり、親不孝だねって言う人がいるけれど、親孝行な娘でした。そして今も、亡くなってまで孝行してきているというように感じます。脩 娘に導かれて仏縁にふれることができ、このご縁によって今聞法する私たちがいると思う。まだまだ腹には落ちませんが聞法を続けます。(去る九月二十五日、スタッフU、H、Nの三人がご自宅にお伺いしてお聞きしました。)

碧南 青木 馨



か。西国の人」とはお浄土を指すとも受け取れる。後にこの御影が石山寺に掛けられていたといわれ、上人の母は石山観音の化身であると言われるようになった。

蓮如上人は後年に、幼少時に鹿の子姿の絵を描いた絵師にめぐり遇えた。再びその絵を描いてもらい、それを母の形見として、寺をでた十二月二十八日命日と定め、母をお敬いされたのである。

赤色赤光

「このあたりはまだ、こんなことしているんですねえ」、この夏、葬式の還骨法要に臨んだ直後に一人の中年の

男性がボツリとこうつぶやいた。「えっ、一体何のことですか」と聞き返したところ、それは「清め塩」のことであった。よくよく聞いてみると、その昔、その人の住む地方も「清め塩」を使っていたという。ところが数年前より、これはおかしいということ、一切使わなくなったというのである。▼言われてはじめて気がついた。広辞苑によれば「清め」とは「不浄を去ること、清浄にすること」である。そういえば大相撲の土俵にまく塩、料理店や寄席に見られる盛塩もこの意であろう。▼一体お葬式で何を清めようというのか。不浄なる自分自身を清めるのであるうか。いやそうではなからう。それが証拠にはお葬式の前にはまだ塩は登場しない。やはり死を不浄とし、穢れとしてそれを塩で清めるのが清め塩である。たとえそれがどれほど親しい相手であっても▼近頃では、オシボリまで登場し、もちろん焼香の後で使われる。オシボリで落とそうとする汚れとは一体何であるのか。本当に汚れているのは何であるのか。そこに本末転倒する姿を垣間見る思いがする。▼読書の秋も、感傷的な秋もいけれど、今年の秋は、身の回りのあり方を振り返る秋にしてみてはいかがなものか。(〇)

ゴボちゃん

Y. H.

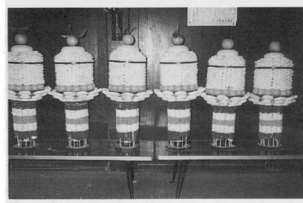
その1
ゴボちゃんとお母さん



(U) われる。いと大き満足感 勤めた 恩講を

ウォッチング

東正寺(碧南市平七町・石川省吾住職)では、手づくりのお華束を作るお華束講が今も存在している。百年以上の歴史を持ち、現在講員は十二人いる。毎年、報恩講(十二月五・六・七日)前の二日間にわたって、二斗六升の餅米を焚き、



大小四千もの餅を飾りつけ、六本のお華束が作られる。

住職は「講員は皆、誇りを持っている。それが良い仕事につながると思う。御

午後一時頃各家の主人が和服に肩衣を付けて集まってくる。十一軒全てのお内仏で、お勤めして回る。午後六時に宿の家に着き、勤行し住職の法話の後、会食する。お寺や村の話題で会話ははずむ。

報恩講

クローズアップ

百年の伝統を守って

東正寺 お華束講

宗祖親鸞聖人のご命日をご縁に、宗祖を偲び、宗祖の頭らかにされた浄土真宗の教えに遇いたことを喜び、報恩の行として勤める仏事が報恩講である。ではどのように報恩講を勤めているのかと言え、親鸞聖人の御正忌十一月二十八日前後に日時を定め(前をお引上げ、後をお取越しという)、何昼夜にもわたって勤め、法要が午前午後に及ぶため、

仏の前で、手次ぎの住職を導師に迎えて、一年に一度、家族そろっての報恩講をお勤めする。さて、報恩講は昼夜にわたってお勤めする報恩の行であると述べたが、実はその在り方こそが真宗門徒の生活規程となるの

である。だからこそ生活上の営為を休止してまで勤め、如来・聖人の尊前に座り教えを聞き、自らの在り方を省みるのである。このことを蓮如上人は御文の中で「細々に信心の溝をさらえて、

報恩講とは

現代社会の生活に於いて



し、本願念仏のことわりをねんごろに聞きひらいて、共に歩んでいかんとする機縁こそが報恩講であろう。(N)

各地の催し

8組 「同朋の集い」を開催。

11月12日(火)午前高河原の慶恩寺、午後貝吹の福正寺、講師はいずれも渡辺賢雄師(乗蓮寺)です。

9組 毎月十二日に相統講法要を勤修。十一月は組内報恩講。

来春四月の誕生会、同じく三会場での花まつり等に取り組む。

10組 十二月十二日「お内佛のお給仕」を中心に婦人研修会を行います。又、昨年に引き続き、佛花の稽古を一・二月中に行います。

11組 組門徒名簿作成の準備が始まった。組の教化事業や寺々の情報を流す組織を作るのが目的。始動すれば門徒意識も育ち、教化活動も活性化するだろう。

12組 去る八月二十四日、組としてはじめて組を出て夏期真宗講座を赤羽別院で開催した。講師は中村薫師。(12組は福地)

13組 帰敬式実践運動講習会が赤羽別院で行われるのを機縁に、組独自の御遠忌事業取り組みに向けて検討開始。今、一色町内では各寺の報恩講真つ盛り。

14組 昨年六月から九月まで行われた「心の元氣塾」は、その後参加者とスタッフの協力によって継続され、近々に開催する予定である。

15組 組の教化事業の洗い直し作業と、新しく御遠忌事業の取り組みに向けて集中して検討中。

赤羽別院紹介

◆10月17日1時半 聖典学習会

『仏説阿弥陀經』 桜部建師 以降毎月一回開催

◆11月13日1時半 真宗講座 『人間・本願・念仏』

毎月一回 亀井 鏡氏

◆11月14日16日 報恩講

14日午後一時半和田法雄師

15日午前午後 伊奈教雄師

16日午前午後 京極 修師

◆毎月28日 晨朝(七時)にひきつづいて法話があります。

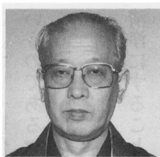
◆別院の新しい会計に八月より石原豊子さんが就かれました。

「赤羽御坊」創刊にむけて

輪番 野々山 洪美

バブルがはじけ、経済大国の夢破れた現代、やっと人間の生き方が問われる様になりました。

「赤羽御坊」が真宗の教えに出遇う一助になれば幸いです。



編集後記

題字「赤羽御坊」「人間模様」を十組明泉寺坊守御館信子さんに書いて頂きました▼見やすいように大きな文字で、読みやすいように易しい文章をと心がけた「赤羽御坊」です。気楽に読んで頂きたいと思えます▼ご自身の随想や、本紙を読まれた感想などをご投稿下さい。(T)

「赤羽御坊」発行の協賛志を募集しています。